

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

ブータンに行ってきました。」

慈光照護のもと、門信徒の皆様にはますます清祥にお念仏ご相続のことと慶賀に存じます。今年の夏は本当に暑かったです。いかがお過ごしでしょうか。

さて、私（若院）は前号でお知らせした通り、6月にチベット仏教の国、そして国教（国の宗教）が仏教であるブータン王国に行つてまいりました。ブータンで唯一の空港であるパロ国際空港は、右も山、左も山でこんなところに降りて大丈夫？というような所にあります。この辺なら大野に空港があるといった感じでしょうか。とにかくたいへん緑が多いです。聞けば『木を一本切るのにも国の許可が要る』のだそうです。そのせいか道も細く、大きなバスは通れません。鉄道もまったく敷かれていません。鉄道を敷けばトンネルをたくさん掘ることになり、自然を壊すからだそうです。野良犬も捕獲・処分することはありません。一方私たちの国、日本では年間数十万匹の野良犬や野良猫

が捕獲され殺処分されているのです。虫もたくさんいますが、殺虫剤というものが見当たりません。ホテルにも蚊取り線香すらないのです。すべての『いのち』がそのままに大切にされているということを感じました。そして日本は同じ『仏教国』なのだろうか……とも。

朝は、野鳥の声、ニワトリの声、牛の鳴き声と、さまざまな音で目覚めます。雰囲気は50年前くらいの日本でしょうか。人々もたいへん温和で、子供たちも親しみのある笑顔で近づいてきます。物売りの人もぜんぜんしつこくなく、インドの物売りの人に慣れている身としては、「こんなんでいいの？」と思つてしまいます。一般の家庭も訪問しましたが、仏間がたいへん立派で、お仏壇があるというより、部屋全体がお仏壇といった感じでした。法要になんと年収の半分を使うと

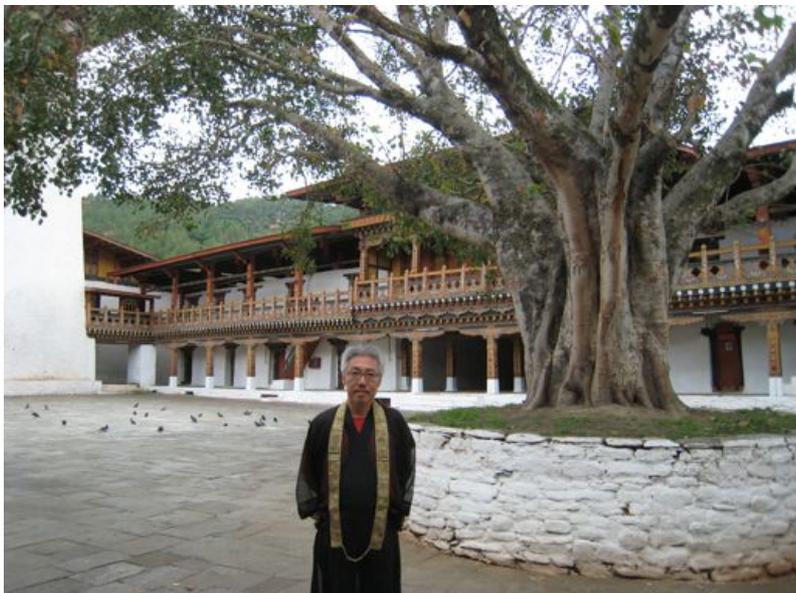


3時間登山したタクツァン寺院です。

いうのもわかる気がしました。

ただ、ブータンにも近代化の波が押し寄せています。2003年に始まったテレビ放送では、家族の団らんが失われると同時に、インドのドラマなどによつて、人々に欲望が芽生えてきたと聞きます。また、ここ2〜3年で急速に普及した携帯電話も、若者を中心に生活スタイルを変化させています。山奥のお寺のたくさんのお坊さんも、携帯の画面を見つめていました。

最終日の反省会で、ご一緒した田中さんと



ゾン（役所兼お寺兼要塞）の菩提樹の木の下で。

「蠅ハエに生まれてきてもいいかなと思いました。」という感想をおっしゃいました。私たちが野良犬も蠅も、すべての『いのち』に分け隔へだてなく、広く広く際きわのない阿彌陀如来のお慈悲が至り届いたってくださることを受け取とっていらつしやる方のお言葉と、一同深くいただいたことでした。旅は本当にいいものですね。

「報恩講のご案内」

今年も報恩講の時期がまいました。今月の左の日程で厳修されます。

日	10時〜	14時〜	19時〜
16日 (土)		大逮夜 報恩講作法 法話二席	初夜 十二礼 御伝鈔拝読 法話一席
17日 (日)	〆満座 阿彌陀経作法 法話一席		

福井市教応寺住職
本願寺布教使
ご法話

奥田 順誓師です。

報恩講は宗祖・親鸞聖人のご命日を中心に行われる真宗最大かつ最も大切な仏事です。お念仏に出遇であわせていただいた聖人様のご恩に報はいる大切な法縁は縁ですので、万難ばんなんを排はいしてお参りください。

今年も福井市のご門徒の嶋田富美子さんが趣味で作られている『和紙折り紙展』を同時開催いたします。なんと3年連続です。多彩な作品に圧倒されますね。和紙は厚みがあつて折りにくいとのことですが、嶋田さんの生み出した作品の数々をどうぞお楽しみください。



「寺へのご連絡・ご相談」

お寺は、ご門徒の皆さんのものです。どんなことでもご相談ください。住職と若院の携帯電話の番号もお知らせしておきますので、もし寺の電話で不都合がありましたら、お気軽にご遠慮なく携帯におかけください。ご門徒の皆さん全員の携帯電話にぜひ登録しておいてください。

住職 内嶋洪淳 (うちじま こうじゆん)
090-8261-3090

若院 内嶋淳浩 (うちじま あつひろ)
090-8967-7902

メールアドレス

soichiro4989@gmail.com

※このアドレスへのメールは若院の携帯電話にも届きますので、急ぎの用事でも大丈夫です。

先日の福井新聞にも『東京の僧侶の会が宗派を超えて悩み相談』という記事がありました。我が寺になんでも相談してください。メールでも電話でも手紙でもかまいません。苦悩を解決することはできないかもしれませんが、悩むが、お聞きすることで悩みを共有し、解決に向かう糸口を見つけることはできるかもしれません。日本は自死じじ(自ら生命を絶つ)される方が、12年連続で3万人を超えています。悩みを一人で抱え込まずに、安心して共ともに悩ましましょう。『悩みのない人なんて一人もない』のですから。

「来年は大遠忌に行こう！」

来年本願寺で厳修される親鸞聖人750回大遠忌の団体参拝の申込書を同封させていただきますました。もう私(若院)を含め、次の大遠忌のご縁には遇あうことができせん。この最後の機会に、ぜひ一緒に参りし、親鸞聖人が90年のご生涯をかけて私たちに伝えてくださったみ教えを共に味わいましょう！

この新聞を、遠くのご家族にもお送りします。住所を教えてください。